

健友 KENYU 友

板橋区退職者会会報

第87号 現在の会員数515名

1月号 (令和4年) 2022.1.1

発行 板橋区退職者会
編集 会報部
印刷 株式会社 弘文社



謹賀新年



「板橋区制施行90周年」に向けて更なる飛躍の年に

板橋区長 坂本 健



明けましておめでとうございます。板橋区退職者会健友の皆様には、ご家族おそろいで、穏やかな新年を迎えられたことと心からお喜び申し上げます。

再開が願われていた中で、一昨年に引き続き、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、様々な事業が中止となり、会員間の親睦を図るには難しい一年であったと伺っております。一方で、区の平和都市宣言記念事業による中学生の広島・長崎への訪問に合わせ作成いただいている原爆死没者に捧げる折り鶴を、訪問の中止にもかかわらず、2か年続けて現地に送っていただくなど、区への積極的なご支援をいただきましたことを深く感謝申し上げます。

さて、昨年の区政を振り返りますと、一昨年に引き続き、いたばし花火大会、区民まつりといった主要なイベントが開催中止となる中で、1年延期となつておりました東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会が開催され、板橋区にゆかりのある選手が金メダルを獲得するなど、区民に未来へつなぐ勇気と希望をもたらす出来事がありました。また、12月に「植村記念加賀スポーツセンター」のグラウンドオープン式典を執り行いました。東京2020オリンピック・パ

コロナ禍の2022『一人じゃない みんな同じだよ 心配しているよ』

板橋区退職者会会長 茂木 良一



新年明けましておめでとうございます。会員の皆様には、健やかに新年を迎えられたこととお喜び申し上げます。昨年は新型コロナウイルスのため、一年中不自由な生活を強いられた方も多く、存じます。健友の活動においても例外でなく、令和3年9月末までの殆どの月が緊急事態宣言等の発出下であり、事業が中止や延期に追い込まれました。行動することが悪と言つような風潮や自粛警察と言つた言葉まで出てしまいました。

役員会でも様々な意見が飛び交いましたが、結局、健友としての活動が行えず、誠に申し訳なく思っております。社会では第五波のピーク時に東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会が開催されました。多くの会員の皆様が1964年の東京五輪を覚えていらっしゃると思います。私も西台中学校の生徒でしたので、学校で引率されて外国同士のサッカーの試合を見学に行きました。小雨の中、泥だらけになりながら、必死にボールを追いかける姿、目の前でタックルされた時の人と人がぶつかる音は今でも鮮明に覚えています。今回は無観客のため、児童・生徒の観戦も出来なかったことは、誠に残念に思います。

さて、現在、第六波への備えと共にウィズコロナ、アフターコロナと言つた言葉が話題になっております。私はこのコロナ禍で、人と人との結びつきが希薄化したことが最も大きな後遺症と思っております。東日本大震災後、盛んに飛び交つていた絆という言葉は、あまり聞かれなくなりました。経済活動の再構築も大切だと思いますし新しい生活様式も結構ですが、ぜ

ひ、人と人との結びつきを取り戻すような社会の在り方も忘れないでほしいと願っております。駕籠に乗る人担ぐ人そのまた草鞋を作る人と言いますが、元来、貧富や立場の差はあつても、多くの人が持ちつ持たれつの関係で世の中が成り立っているはずで、このコロナ禍で、風が吹けば桶屋が儲かるではありませんが、想像もしていない見えないところで、苦しんでいる会員の方がいるかも知れません。すべての会員の皆様へ、一人じゃない、みんな同じだよ、心配しているよと健友の活動で伝えたいと思っております。

昨年7月、40周年記念の環としてホームページを立ち上げました。これは、会員の皆様が少しでも繋がりを保持していただきたいとの思いで作りました。

会報と共に皆様の結びつきのツールとなるよう、努めてまいります。日頃生活で思っていること、小さな感動、一人旅など何でも投稿いただき、それを読んだ会員の方々が共感や元気を貰えるようになればありがたいと思っております。

令和4年は、実施可能と判断した事業は、創意工夫して慎重にそして大胆に行つていきたいと思っております。現在、趣味部でもリスクの少ない部は動き始めました。ぜひ、ご参加いただきたいと思ひます。

会員の皆様には、今年一年、大切な時間をお元気で、心おきなく過ごせるようお祈りいたします。

末筆になりますが、健友の活動にご理解ご協力をいただいている坂本区長をはじめ区役所の皆様に心より感謝申し上げますとともに、コロナ禍の厳しい状況の中でも、心身とも健康で活躍されることを祈念いたします。

ランピック競技大会からの流れを受け、区民のスポーツ振興や地域の活性化を図る施設となることを願っております。

来たる4月には、「(仮称)板橋区子ども家庭総合支援センター」を開設し、7月に特別区では6区目となる児童相談所設置区となります。誰一人取り残さない安心・安全なまちの実現に向け、次代を担う板橋区の子どもたちが健やかで心豊かに成長できるよう、全力で取り組んでいきます。

10月1日は「区制施行90周年」を迎えることとなりますが、東京で一番住みたくなるまちに向け、「いたばしNo.1実現プラン2025」を着実に推進するとともに、適切な対策を迅速に実施しつつ、将来にわたつて持続的に発展する区政実現への飛躍の年にしていきたいと考えております。

ポストコロナ時代における新たな日常の定着を見据え、「SDGs戦略」「デジタルトランスフォーメーション(DX)戦略」「ブランド戦略」の3つの柱へ限られた経営資源を集中的に投入し、質の高い区民本位の区政経営を推進してまいりますので、引き続き、退職者会の皆様には、さらなるご支援とご協力をお願いいたします。

結びに、退職者会のご発展、会員並びにご家族の皆様方の益々のご多幸とご健康をお祈りし、年頭のご挨拶とさせていただきます。

板橋観光アラカルトシリーズ

図書館は癒しのオアシス

板橋区平和公園内にある板橋区立中央図書館が、今春には開館二年を迎える。板橋の魅力「緑と文化」を象徴する図書館として、大勢の来館者で日々賑わっている。公園で遊ぶ子供たちの笑顔や、季節ごとに変化する大樹の景色を眺めながらの読書は格別である。また、館内にあるカフェは、ゆったり過ごせる心地よさと、豊富なメニューが好評で、野外テラスでも飲食ができる開放的な空間である。一階にはいたばしローニヤ絵本館も併設しており、100か国の絵本と出合えて、大人もついつい引き込まれるコーナーとなっている。

人と自然が、融和したモダンな設計にも注目したい。

天気の良い日には、階段から見られる東京スカイツリーも絶景である。

坂本 富江



板橋区退職者会事務局

場所 板橋区役所9階
正面玄関側エレベーター
トイレ左奥
「総務課分室」
・水曜休み
住所 〒173-8501
板橋区板橋2-66-1
総務課内
電話 03-3579-2749

年男
年女



あの日を忘れない

稲毛田 きえ子

保育士として40年余り、ここが最後の保育園。そして最後の卒園式。始めて望んだ袴姿の卒園式を終えた次の日です。大きな揺れに襲われました。11年前の東日本大震災です。くしくも旧園舎は耐震工事中で仮園舎での生活でした。子供たちの安全を第一に隣接の公園に避難しました。近隣の住民の方々も次々に集まり声を掛けてくださったことは、忘れることができません。

この震災で生まれ故郷のふるさと、壊滅的な被害を受け心が痛みました。ちょうどその年3月が定年でした。決して忘れられない体験を味わいました。

現在 コロナのウィルスで大変な時期を迎えております。繰り返し返す困難を克服する偉大な力を持っている人間の凄さを感じています。少しでもその一員であってほしいと願っています。

縁（えにし）

高橋 武久

今年は「寅」年の中でも「五黄の寅」です。十二支は12年に一度の周期、九星は9年に一度の周期なので、二つが重なる「五黄の寅」の年は36年に一度しか巡ってきません。私は1950年の五黄の寅年生まれです。五黄の寅年は、1950年・1986年・そして2022年です。

そしてなんと、私の内孫が今年1月末に誕生の予定です。また、1986年生まれの双子の甥姪もあり、3代続いているには縁を感じています。（偶然かな？）五黄の寅年生まれは、最強の運氣を持つとされ、強い正義感と信念を持ち困難を克服する意志と行動力を持つといわれています。（私は例外ですが！）生まれくる孫が、そんな人間になってほしいと（祖父ハカです）密かに願っているところです。

先日、娘の子どもたち（男子3人）とサッカーや鬼ごっこをして遊びました。その7歳の孫に「おじいちゃん歳とっているから走れないの？」と言われてしまい、ちよっとショックでした（ズバリその通りです）。日頃からシニア仲間と卓球をしたり、ストレッチやウォーキングで体力維持に心がけているところですが更に体力増強に努め、孫たちとの時間を楽しみたいと思っています。

牙の抜けた寅

茂木 良一

私は五黄の寅、丸寅である。昔は、きつい性格と言われ、物事を突き詰めるような性格だった。今では、12年間も遊び呆けて気ままに過ごすような生活ができるようになった。無論、意に沿わないこともあり、腹が立つこともあるが、「まあ、いいか」「所詮、こまめの歯ぎしり」と諦めることができるようになった。牙が抜けたんだらう。

実は、私は年齢のことも考えず、「早く寅年が来ないかな」と思っていた。信州諏訪大社の御柱祭の年だからである。6年ごと、寅年と申年に行われる。4月の山出し・木落とし、5月の里曳き・立御柱、9月の小宮祭。友人宅に泊まり、地元の法被を着て、御柱を引く。娘は木を

引つ張って何が楽しいのと言うが、ハケ岳をバックに6年毎に名前も知らない村の人と「久しぶり」「元氣だった」と話しながら「よいきー」と綱を引くのが楽しいのである。「一刻も早くコロナが収まって欲しい。私の最後の御柱祭参加を許して欲しい。6年後はこの世にいても流石に御柱は引けないだろう・・・」。私は、煩惱の塊なんだらうか。そろそろ年貢の納め時なのに、遊び心が収まらない。

K27計画

永山 加秀

神武天皇は127歳まで生きられたそうです。それにあやかり、恐れ多くもこれまで、冗談で108の煩惱を超えた108歳を長生き目標としてきました。しかし友達の突然の訃報などに接して、現実的なところを考えを改めました。父の享年89歳、母の生存97歳を踏まえて90歳としました。それは丁度皇紀2700年にあたります。自分の名前の加秀の頭文字Kをとり、かつてにK27計画と名付けました。たった一人の孫もその時は20（はたち）になります。一病息災の身ですが、貝原益軒先生の「養生訓」を手本にして、粘るだけ、粘ってみたいと思う今日この頃です。「憎まれっ子世にはばかる」ではありません。動物の虎は動物園でも30歳がせいぜいです。人間ですからその3倍はとうていしょう。退職者会のみなさんも、大いに長生きして一緒に日本のGDPに貢献しましょう。

シンプルライフ

後藤 ふみ子

年女！何回目の？それはご想像にお任せします。年頭の抱負となると、以前は妄想に近い実現性より希望だけに満ちあふれたものが多かったが、この年齢になると目出たといは程遠い、人生の締めくくりを念頭に入れた超現実的な内容が多くなってくる。

大きなテーマとしては、人に最終的に迷惑をかけないよう将来への準備を進め、シンプルに過ごすことがあげられる。早い話、世間でいう終活を計画的に進めるといふことである。生活の中では、最低限必要な生活用品以外は身の回りに置かぬよう処分や整理をする。趣味も、現在までの流れをできるだけ継続しながら、作品として残らないものにしぼる。例えば、花が好きなので生花を生け、枯れたら捨てる。歌うことも健康増進と安らぎをもたらすので、理想に近づくには試練が必要であるが前進させたい。また、社会的なつながりも大切に継続したいと思っている。皆様、本年もよろしく願いいたします。

「はやくー来いー来いー！コロナ明け」

西谷 昭比古

今年、6回目の「寅」を迎える年男である。コロナが重く押し掛かる。一方で健康寿命とその後続隊が追いかけてきている。伊太利の都市、建築、美術に取り憑かれ、かれこれ20年、これまで何度か訪伊した。それぞれが歴史を感じさせ、個性に輝き、驚きと感動を持って見入ってきた。

ピサの斜塔では螺旋階段が長い年月で踏み面が擦り減り、ある所では身体が外壁側に倒れ、逆に内側に倒れかかるところもある。直立姿勢で上ることがままならない。そうした訳で屋上に着いた時には、平衡感覚がおかしい。吸い込まれそうで地上をのぞき込めなかつた苦い経験がある。収束の暁には、トリノでトラムからの街並みやバロック建築を見てみた、と思っている、「イタリア研究」が趣味の年男である。

五黄の寅

縣 久夫

私が生まれたのは昭和25年（1950年）、36年に一度の五黄の寅です。こ

の年は、聖徳太子の千円札が発行され朝鮮戦争が勃発した年です。五黄の寅年の性格の言い伝えから、男子は負けず嫌いで頑固・強情と年長の周りの人から、迷信ながら、からかわれていました。昭和25年は団塊の世代（昭和22年〜24年）の後ですが、子供の数も多く食糧難の時代でした。家は麦飯煮干しを食べ、小中学校の学校給食では、コッパンにキヤメル状のマーガリン・脱脂粉乳・イナゴ・シラカバ揚げなどが献立でした。今と比べるとずいぶん粗食でした。それでも、大病や一度も入院することもなく、今こうして元気にいられるのも亡親はじめ粗食のおかげだったと思います。日本人男子の平均寿命を超える次の年男になるまで「無理せず、ほどほどに。受け流す。」をモットーに、五黄の寅のイメージ（頑固・強情等）に逆らって生きていこうと思っています。

豊穡な時間を過ごすために

片桐 正隆

月日のたつのは、早いものです。少年の一日と老人の一日は、同じでは無いと感じる今日この頃ですが、最近読んだ浅田次郎氏の小説の中で次の様な文章がありました。老後の生活というのは、「何をしても良い」と考えれば豊穡な時間だが、「何もしなくても良い」と考えれば貧困な時間なのである。私はどちらかと言えば怠惰な性格の故、貧困な時間を過ごすことが多くなっているようにです。そんな私ですが、「退職後は田舎暮らしをしよう」と、計画していたので、東上線の「つきのわ」にセカンドハウスを購入しました。森林公園駅の一つ先ですが、板橋区から一時間ほどなのに山や川など自然も多く里山の情景が溢れている地域です。畑も借りて収穫の大変さと喜びも体験しました。週末になると「今日はどこに行こうか？」と秩父方面へのドライブ・山歩き・バーベキュー、日帰り温泉など夫婦で楽しんでいるこの頃です。健康で豊穡な時間を過ごす目標の他に、現在私は上板橋南口駅前再開発組合の理事として微力ながら「災害に強いまちづくり」のお手伝いをさせていただいております。板橋区の未来の一助になればと思っています。

6週目を終える

前田 邦晴

千支の年回りもいよいよ6週目が終わる。所謂年男となった。7週目は何処まで行けるのかは、思うだけ野暮なことだろう。さほど振り返るほどの人生ではないが、改めて年男の一言と頼まれ浮かんだのが家康公の遺言であった。

この遺訓は真贋の程が諸説あるらしく、光圀の「人の戒め」をもとに、幕臣の池田松之助という人物が家康公なら、こういう言葉を残したはずとの説がある。人の一生とは重き荷を背負いて歩くがことしから始まる遺訓は家康公が幕臣かは別に、これから店じまいをする者にとって御尤もな御遺訓である。今の世の中、この辺りを肝に銘じながら7週目に向かっていくことになりそうである。

還暦は、新たなスタート

石山 壯

私の父が58歳で脳卒中になり半身不随となったこともあり、58歳での退職を考えていましたが再任用制度が無くなり、予定より1年遅れて、勸奨退職をしました。3年前には、退職後、元氣な内に旅行や釣りなどに行きたいと思っていたが、コロナと退職願を出す半年前まで、介護申請が認められないくらい元氣だった同居する義理の父が11月に倒れて入院し、胃ろうの手術を行い介護が必要な状況になりました。自宅での介護に向けたリフォームの打合せや立会、7月から12月24日まで、「いたばし職業訓練校の介護サービス科」で療の吸引や経管栄養などの介護技術を学びました。義理の父は8月31日に老健施設を退院し、自宅に戻ることができました。その後、9月7日に再入院し、退院の予定日の前日に急変し、帰らぬ人となりました。実と義理の父母もなくなり、還暦を迎えた今年4月からは、悠々自適に板橋区の短時間再任用職員として、新たな人生をスタートします。



寿 寅年生まれの会員

43人

大正15年（96歳）

相田 定吉

2人 坂本 徳太郎

昭和13年（84歳）

青木 久美子

21人 荒井 由美子

今井 章雄

小石 三子

佐野 登美子

小嶋 好宏

木村 儀子

霜越 子江

高橋 正博

富田 美弘

並木 忠三

長谷川 二勇

星野 秀郎

本橋 溪勇

桃原 五郎

昭和25年（72歳）

縣 久夫

19人 赤地 憲一

稲毛 さえ子

片桐 健次

柴原 隆夫

後藤 謙一

曾根 雄久

多賀 信子

高橋 武久

時田 香子

永田 加秀

西谷 昭比古

前田 邦晴

渡辺 光夫

昭和37年（60歳）

石山 壯

1人

祝長寿万歳

米寿12名、喜寿12名の方が今年、お祝いを迎えます。おめでとうございます。これからもお元氣でご活躍されますよう祈り申し上げます。

米寿（昭和9年4月2日〜昭和10年4月1日生まれ）

金井 兼子

熊田 守雄

小川 直正

宝田 博之

森川 利一

菅原 良教

梯 幸弘

小島 武男

矢部 登喜子

金井 信男

喜寿（昭和20年4月2日〜昭和21年4月1日生まれ）

直井 正雄

青田 成昭

関木 良子

今福 佳悠

正村 久仁子

平岩 和恵

田村 喜代子

内田 晋

寄稿

『日々是好日』



森川京美

2019年2月「札幌雪まつり」の旅行中、突然のコロナウイルスによる感染被害の報道。それも、北海道に降り立った紋別空港から札幌へと、コロナ禍に追われながらの旅行だった。その後、グリーンカレッジの卒業式・大学院の入学式も中止となった。どうにか講義が始まり、緊張しながらの受講。論文を書く頃には図書館も閉館となった。

このコロナ禍に、自宅の隣ではコーマシヤルで有名なO建設が、家屋4軒の解体から新築までを一貫して行っていた。家と新築家屋の前の私道は老人が多く通る生活道。なのにこの工事で街灯は撤去され暗いまま、未だ建設会社の対応はなされていない。この最中、当家では不審者の侵入があり板橋警察に通報。夜遅いにもかかわらず数名の方々による調査が続き、丁寧な対応で不安を和らげて下さり、夜中の巡回も増やして下さった。しかし、相変わらず工事のトラックの違法駐車利用が続き安全への配慮もなし。私道の持ち主や近隣住民の苦情が渦巻く状況が10ヶ月以上続いた。

新築家屋が完成・売出しの頃には、私道の舗装はヒビが入り、雨水ますやL字側溝も壊された。自宅前は特にひどく、ピアノを運んできたトラックの前輪が落ち込み、慌てる運転手の様子も見られた程。道路は修繕の約束をされていたものの連絡がとれなくなった。尚且つ街灯は撤去されたまま。町会の常任理事・民生児童委員を仰せ付かっている身でもあり、近隣の苦情やお叱りなども随分寄せられ、憂鬱な日々が今も続いている。

ある日、街灯が設置された。近隣の人たちの様々な関係団体への働きかけが実を結んだ。だが点灯まで時間がかかり、点灯されても私道は暗い状況。これは街灯の取付け角度が悪く一軒の家の白壁を照らすだけだから。照らされた住人は、眩しい光の対策に悩んでいた。地域センターにライトの向きを変えて欲しいと依頼するが、業者が難しいとの対応だった。そんなある日、十分とはいえないが、とりあえず街灯が私道を照らすようになっていた。所有者達それぞれの行動が成果を生んだのだと知った。

民生児童委員は苦情係だと嘆き、様々な課題に困り果てたとき、回りの人たちの援助があった。更に、驚いたことに鬼籍に入った人達の応援もあった。直接に何かを告げた訳ではないが、気付きのヒントを与えてくれたのだ。そうした援助が有り、それなりの成果を生んだのではないかな。

私はコロナ禍において病弱な家族を抱える身。予防接種では、ホームドクターに依頼したが多くの人との対応で断られ、すぐる思いで数件の病院に電話したがこれも断られた。だが、友人のアドバイスで意外に早く近所の小児科で受けることが出来た。

中々日常に戻れない日々。屋上では早春に梅が咲き、藤は早々と見事な花房を見せて、訪問者をも楽しませてくれた。夏にはトマトが実り、パッションフルーツもたわわに実った。猫の額にも及ばない庭では、ミニトマト・ピーマン・白ゴリヤが実り、お裾分けも出来た。

まだまだ以前に比べれば「不自由だ」と思う。でも、『世の中にまじらぬにはあらねどもひとり遊びぞ我はまされる』と詠った良寛。まさに、ここに生きていくヒントが有ると思う。コロナ禍でどちらに軸足を置くかで、今迄の友人関係を保ち、更に自身で楽しむことに専念もできる。ならばこの状況は、自然が与えてくれた『日々是好日』ではないのか、と思う昨今である。



『進化』始めたホームページ『健友』

まずは、右記からログインして！

●パソコン・スマホでログインしてみる。



●QRコードを読みこんでログインしてみる。



※掲載依頼はこちらへ

✉ : info@itabashikenyuu.tokyo

＜掲載内容＞

各部の情報をいち早く知ることができます！

- ☆本部からのお知らせ
- ☆事業部
- ☆旅行部
- ☆会報部
- ☆趣味部
- ☆キラメキサロン等々

ドンドン更新されています！！

～例えば、こんなことが載っています！～

- ☆その1 趣味部 → 麻雀部・・・部長が語る 麻雀蘊蓄『40年前も20年前も麻雀やっていた』
- ☆その2 キラメキサロン・・・飼い主が語る 癒しの空間『犬派？』、『猫派？』

『犬派？』『猫派？』

我が家は、現在8頭の猫と同居しています。今回、最年長のミキを紹介します。ミキは京都生まれの東京育ち、15歳の雌猫です。15年前の5月、妻の実家に里帰りしていた時、鴨川の上流、柵野という所に、夫婦で釣りに出かけました。河原に自転車を止めると、……。ミキが我が家の猫になったいきさつです。発見当時は手のひらサイズだったミキも現在は体重7キロ、立派な最年長猫に成長し、マイペースな生活を送っています。高齢になりましたが、これからも元気に暮らして欲しいと願っています。(Y・I) —キラメキサロンより文章引用—<画像省略>

より多くの方の近況報告を、もっと自由に発信できる場として設置しました。
多くの皆さんの投稿等をお待ちしております！

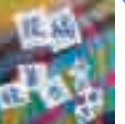
追悼 鈴岡利美さんの思い出

田村 弘治

この人の周りには、多くの人が集い多くのグループができた。旅の仲間、登山の仲間、釣りの仲間、職場の仲間と集い語り合う姿は今も懐かしい。こうした仲間が集まるのは、誰となく人を引きつける魅力を持った人柄からくるのではないかなと思う。

鈴岡さんは、私にとっても良き先輩であり、また良き仲間でした。思い出としては、俗に言っている「諏訪神社？」という酒屋さんでの飲み会、お酒も乾き物のつまみも原価であった。就業時間が終わると早い者勝ちで席が埋まる。皆役所の仲間、飲みニケーションが始まる。また、旅行などもまとめ役であった。スキー旅行もまた忘れがたい良き思い出の一つである。野沢温泉スキー場では、民宿の主人と飲みに行くことや馬刺しと濁り酒、外湯のはしごなど、仲間との和気あいあいの会合が懐かしき思い出される。

こんなに人として温和でやさしかった人が病に倒れ、約6年半の闘病のすえ2021年7月に旅立たれた。多くの仲間や愛する家族に囲まれた幸せな一生であったと思う。旅先で先に逝った仲間や家族と楽しい語らいをしていることを思い、ご冥福をお祈りする。



野川は相変わらずゆったりとたおやかに流れていました。
2021年11月25日健歩会東小金井駅10時集合。会えない間により美しくなった人、痩せてシュッとになった人・より太った人(私)も再会に歓喜。住宅街やはけの森緑地とその小道を抜ける紅葉並木や大きな銀杏の黄色の世界に。寂しかった長いトンネルを抜けた気がして嬉しかった。サクサクと枯れ葉を踏みそのフカフカ感を楽しみながら6kmを歩いた。

このままの感染者数なら、計画案縮小や変更にも追われる役員会と会長の悩み顔を明るく変えてくれる。役員会では40周年記念事業やリニューアル版バス旅行の計画進行中です。2022年を迎え新しい気持ちの今、次の再会に向けて女磨き男磨きしておきましょう。

空や季節そして野川もたゆまず流れていました。野川のように豊かにゆつくりと流れましょう。
小城 恭子

健友掲示板

●健友創立40周年記念祝賀会(1月31日開催予定)は中止となりました。

●春の日帰り旅行(3月10日実施予定)は中止となりました。

●退職者会(健友)総会日時 5月12日(木)会場 区立グリーンホール1階ホール参加費 4千円申込案内 4月上旬発送予定

編集後記

40周年特別号執筆者からお礼のお手紙をいただきました「特別号発行後、昔の職場仲間から電話が入り1時間前も昔話に花が咲き、40年前に戻っていた感じが感謝します。」という内容でした。会報を介して旧交を温めていただくことができました。新たに開設しました「健友ホームページ」も併せてご覧いただき親交再開等への活用を願っています。(T・E)



訃報

- 橋本 好子 80歳 令和3年3月21日逝去
- 阿部 和三 90歳 令和3年8月13日逝去
- 浅野 一郎 87歳 令和3年10月14日逝去
- 間宮 光俊 84歳 令和3年11月7日逝去
- 岸野 富蔵 100歳 令和3年12月18日逝去
- 里川 喜信 82歳 令和3年12月19日逝去